



大渡 啓介 教授が第9回日米レアメタル会議において招待講演を実施

【概要】

理工学部化学部門の大渡 啓介 教授が、令和4年3月10日(木)～11日(金)に国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の主催でWeb開催された第9回日米レアメタル会議において、新規金属分離剤の開発に関する招待講演を行いました。

【本文】

令和4年3月10日(木)～11日(金)に国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の主催で第9回日米レアメタル会議(9th Japan-U.S. Bilateral Meeting on Rare Metals)がWeb開催されました。本会議はレアメタルに関する情報共有と人材交流を目的として、日本側とアメリカ側で毎年交互に企画運営されており、レアメタル資源や分離技術に関連する著名な研究者が招待講演を行っています。

今回は日本側の主催により、第9回の会議としてNEDOが企画運営を行いました。

会議には、日米から8名ずつ計16名の招待講演者が選出され、国内ではレアメタル研究会の主宰者であり、この分野を牽引する東京大学の岡部 徹教授や早稲田大学の所 千晴 教授、アメリカ側ではオークリッジ国立研究所のBruce Moyer 教授など錚々たるメンバーが名を連ねる中、化学部門の大渡 啓介 教授が「金属分離のための特異的な配位構造を有する抽出試薬の調製と最近の研究(Preparation of extraction reagents with specific coordination structures for metal separation and advanced research)」と題して、招待講演を行いました。分離試薬に特化した内容を講演した大渡教授には、80余名の聴講者から、海水からのリチウム回収の可能性や環状分離剤の実用性などについて質問がなされ、レアメタル資源の安定な確保と先端技術産業への提供のために非常に有意義な会議となりました。